

自己知論の現在—合理的実践的アプローチの可能性—

ワークショップの主旨

オーガナイザ：金杉武司（高千穂大学）

「自分がいかなる心的状態にあるのかを知っている」という意味での自己知には、他者の心的状態や世界についての知識にはないある種の特権性があるように思われる。自己知にはなぜそのような特権性があるのだろうか？ この古典的問いをめぐる議論において、近年、新たな展開が生まれている。それは、自己知を持つ主体を単なる認識者として捉えるのではなく、合理的実践者として捉えることで、この特権性を説明しようとするアプローチ（以下「合理的実践的アプローチ」と記す）への注目である。本ワークショップでは、このアプローチの妥当性を批判的に検討することを目指す。

（1）まず、そもそも「自己知のある種の特権性」とは何であるか、そしてこの特権性の説明としてこれまでどのようなアプローチが提示されてきたのかを整理する。

（2）第二に、合理的実践的アプローチを紹介し、このアプローチが特権性をめぐる自己知の古典的問いに対する説明として妥当であるかどうかを批判的に検討する。

（3）第三に、1970年代以降に自己知の新たな問題として注目されるようになった「心的状態の内容に関する外在主義と自己知の両立可能性」の問題に対して、合理的実践的アプローチがどれだけ有効であるのかを批判的に検討する。以上の議論を通して、合理的実践的アプローチによる自己知論の新たな展開の暫定的な総括を行うことを目指す。